

プログラム

世界循環経済フォーラム World Circular Economy Forum 2018



WORLD CIRCULAR ECONOMY FORUM 2018



はじめに

世界循環経済フォーラム（WCEF）は、フィンランド政府がフィンランド・イノベーション基金（Sitra）を通じて進めている世界的取り組みの1つです。WCEFでは、1,000人を超える世界のビジネスリーダー、政策策定者および専門家が一堂に会し、循環経済に関する世界の知見を発表します。また同フォーラムでは、「どうすれば企業が循環経済を通して新たなビジネスチャンスをつかみ、競争優位性を築けるか」、「循環経済が国連の持続可能な開発目標（SDGs）にどのように貢献できるか」などの課題も検証されます。ビジネス部門と環境部門が協力し合っ初めて、真に競争力のある解決策が生まれるのです。

2017年6月にフィンランド・ヘルシンキで開催された第1回フォーラムには、およそ100カ国から約1,600人が参加し、その半数以上が企業関係者でした。

世界循環経済フォーラム（WCEF）2018は、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）と日本国環境省との共催により、2018年10月22日から23日に横浜市（首都圏）のパシフィコ横浜で実施されます。

WCEF 2018では、循環経済の将来像を構築することを主な目的に、「循環経済がもたらす経済的利益と社会的公正」、「循環経済におけるエネルギー・気候問題の解決」、「グローバル・バリュー・チェーンと循環貿易」、「共有モビリティ」、「循環経済による海洋プラスチックごみの削減」などのテーマが議論されます。

またWCEF 2018では、日本が世界をリードする循環経済推進国の一つとなった過程や、官民連携に関する日本のベストプラクティスも紹介されます。

17の全体会合とパラレルセッション、キーノートスピーチ、テーマ別分科会、ネットワーキング活動などで構成されるWCEF 2018は、今年最も注目されているイベントの1つです。

本フォーラムは、招待制となります。当日はWCEF2018ウェブサイト（<http://www.wcef2018.com/>）にて中継を行う予定です。また、フォーラム後も同ウェブサイトにてセッションの様子を動画で紹介する予定ですので、そちらもご覧ください。

PL1: WCEF 2018オープニング – 2050年に向けた循環ビジョン

モデレーター：高村ゆかり、東京大学教授、ピーター・ウッドワード、プロファシリテーター

WCEF開会セッションでは、開催国日本に謝意を示し、ヘルシンキで行われた前回会合を振り返りながら、2050年へのビジョンに焦点を当てた世界循環経済フォーラム2018の概要を説明する。



SDGs:



12:00	グランド・オープニング・ライブショー
12:06	イントロダクション – 高村ゆかり、ピーター・ウッドワード
12:09	安倍晋三内閣総理大臣からのビデオメッセージ
12:10	「WCEF 2018へようこそ」 ミッコ・コソネン、フィンランド・イノベーション基金 (Sitra) プレジデント
12:14	「日本政府・フィンランド政府からの挨拶」 原田義昭、日本国 環境大臣 キンモ・ティエリカイネン、フィンランド共和国 住宅・エネルギー・環境大臣
12:21	「横浜へようこそ!」 – 林文子、横浜市長
12:24	WCEF 2018 参加者会話「2050年に向けたビジョン」 (出席者が近くにいる初めて会う方と話す機会とする)
12:35	開会の言葉とハイレベル・トーク: 「グローバル循環経済を作る」 未来への声 - 2050年に向けた生徒の希望 ユルキ・カタイネン、欧州委員会 副委員長 石井菜穂子、地球環境ファシリティ (GEF) CEO兼議長 河野正道、経済協力開発機構 (OECD) 事務次長 イザベラ・テイシェイラ、国連環境計画 (UNEP) 国際資源パネル 共同議長
13:43	WCEF 2018についてのインストラクション – 高村ゆかり、ピーター・ウッドワード
13:45	セッション終了

PS1: 都市における食品循環システム

モデレーター：アシマ・スクデブ、エレン・マッカーサー財団

循環経済ソリューションの実施において、都市は極めて重要な役割を担っている。本セッションでは、都市におけるバイオサイクルの機会を検証し、フードバリューチェーンを完結させる方策を話し合いながら、世界中で都市化が進む中での食料生産の解決策を探る。



14:30	<u>モデレーターによるイントロダクション</u>
14:35	<u>「都市でのバイオ循環：Urban biocycles」</u> ジョス・ブレリオ、エレン・マッカーサー財団
14:50	<u>「横浜市における循環経済」</u> 福山一男、横浜市 資源循環局局長
15:05	<u>「事例：食をめぐる循環経済」</u> 石坂典子、石坂産業株式会社 代表取締役 宗像義恵、B.Grove Inc. 代表
15:20	<u>パネルディスカッション：「急速に拡大する都市において、循環経済がどのように貢献できるか」</u> イボンヌ・ヤン、ICLEI東南アジア プログラム・オフィサー ミリアム・オトゥー、国際水管理研究所（IWMI）研究グループリーダー 高橋巧一、株式会社日本フードエコロジーセンター 代表取締役
15:50	Q&A
16:00	セッション終了

SDGs:



Co-Organiser:  ELLEN MACARTHUR FOUNDATION

PS2: 循環経済形成のためのファイナンスとインパクト投資

モデレーター：ティモ・マケラ、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）シニアアドバイザー

循環経済への移行には大規模な投資や資金が不可欠である。本セッションでは、循環経済を支える国際金融機関の役割、ならびにインパクト投資を活用して循環経済移行への民間投資を呼び込むためのツールやメカニズムについて議論する。



14:30	<u>イントロダクション</u> ティモ・マケラ、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）シニアアドバイザー
14:40	<u>キーノート：「循環経済と金融：Financing the circular economy」</u> 石井菜穂子、地球環境ファシリティ（GEF）CEO兼議長
14:50	<u>キーノート：「インパクト投資と成果基準の融資」</u> ミカ・ピューッコ、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）プロジェクトディレクター
15:00	<u>パネルディスカッション：「現在の金融ツールは循環経済への融資に適合しているか？インパクト投資などの新たな金融ツールは循環経済においてどのような役割を果たせるか」</u> 石井菜穂子、地球環境ファシリティ（GEF）CEO兼議長 五木林太郎、国際金融情報センター 理事長 ヴェロニカ・デ・ラ・セルダ、TriCiclos（チリ）パートナー兼CEO ミカ・ピューッコ、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）プロジェクトディレクター
16:00	セッション終了

SDGs:



PS3: 循環型社会に向けた日本の取組

モデレーター：竹本和彦、国連大学サステナビリティ高等研究所 所長



14:30	<u>セッション開始、モデレーターによるイントロダクション</u>
14:35	<u>「第4次循環型社会形成推進基本計画」</u> 酒井伸一、京都大学 教授
14:50	<u>「地域循環共生圏の考え方」</u> 中井徳太郎、日本国環境省 総合環境政策統括官
15:00	<u>パネルディスカッション：</u> 北辻卓也、大阪市 環境局長 作花哲朗、北九州市 環境局環境国際経済部部長 C.R.C. モハンティ、国連地域開発センター（UNCRD）環境プログラムコーディネーター オリアナ・ロマノ、経済協力開発機構（OECD）政策アナリスト 山本昌宏、日本国環境省 環境再生・資源循環局長
15:45	<u>質疑応答</u>
16:00	<u>セッション終了</u>

SDGs:



PS4: 第4次産業革命の技術活用による循環経済促進

モデレーター：江田麻季子、世界経済フォーラム（WEF）日本代表

電子機器、プラスチック、フード及びバイオ・エコノミーの分野において、循環経済の拡大・加速を妨げている主な課題は何か？

本セッションでは、循環経済移行における緊急課題を解決するために第4次産業革命技術の応用に取り組んでいる循環型経済加速プラットフォーム（PACE）の活動を参考に、電子機器、プラスチック、フード及びバイオ・エコノミーの分野に焦点を当てながら、循環経済移行の障壁を取り除くために必要な枠組みについて考える。



14:30	世界経済フォーラムおよびアクセントゥア・ストラテジーからの歓迎の挨拶 <u>アントニア・ガウエル</u> 、世界経済フォーラム（WEF）循環経済イニシアチブ統括 <u>江田麻季子</u> 、世界経済フォーラム（WEF）日本代表
14:35	スピーカーシリーズ：第4次産業革命の推進：循環経済に向けた技術的なソリューションと課題 <u>サラ・チャンドラー</u> 、アップルシニアディレクター <u>リアン・ケンプ</u> 、エバーレジャー 創設者兼CEO <u>ケイト・E・プラント</u> 、グーグルサステナビリティオフィサー <u>レオン・ウィジナンズ</u> 、ING 持続可能性グローバルヘッド <u>ヘラルド・テッパー</u> 、フィリップス 循環経済プログラムリード
14:55	分科会グループおよび第4次産業革命技術の紹介
15:00	分科会グループ
15:40	各グループによるエレベーターピッチ
15:55	セッションまとめ
16:00	セッション終了

SDGs:



PL2: 開発途上国での循環経済による社会的、環境的及び経済的便益

モデレーター：高村ゆかり、東京大学 教授、ピーター・ウッドワード、プロファシリテーター

発展途上国では、互いに密接に関連した環境的・社会的・経済的課題を解決するために循環経済をどのように活用すればいいか？

本全体会合の主なテーマは、循環経済に関する国・地域間の大きなギャップを埋めるための課題・機会の検証である。さまざまな社会的・経済的・環境的利益を生み出し、持続可能な開発目標の達成を支援することを目標に、各国の実情に合わせて革新的な循環経済アプローチを適用・拡大するための幅広いオプションを提示する。



16:30	モデレーターによるイントロダクション
16:35	東南アジア諸国の発展に対する循環経済のポテンシャル 西村英俊、東アジア・ASEAN経済研究センター（ERIA）事務総長
16:50	循環経済は中国の国家発展をいかに支えてきたか 陸冬森、中国 国家発展改革委員会 資源節約・環境保護司 循環経済処 処長
17:00	各国の事例：ベナンーラック・ナカジャ、ベナン
17:10	各国の事例：インドネシアーノブリザル・タハール、インドネシア環境林業省 固形廃棄物管理課長 各国の事例：ブラジルーイザベラ・テイシェイラ、国連環境計画（UNEP）国際資源パネル 共同議長
17:20	各国の事例：韓国ーイ・ヨンギ、韓国国立環境研究院 環境資源研究局 局長
17:30	インタラクティブディスカッションおよび質疑応答 キース・アルパーソン、国連環境計画 国際環境技術センター（UNEP-IETC）所長 イ・ヨンギ ラック・ナカジャ ノブリザル・タハール イザベラ・テイシェイラ
18:00	セッション終了



PL3: 循環経済による持続可能なライフスタイルと消費者のための問題解決

モデレーター：高村ゆかり、東京大学 教授、ピーター・ウッドワード、プロファシリテーター



私たち一人ひとりが循環ライフスタイルに移行するにはどうすればいいのか？また資源の消費や循環経済の達成において個人が下す決断にはどれほど大きな意味があるのか？本セッションでは、循環ライフスタイルや循環経済における個人・企業の役割を深く掘り下げる。

9:00	<u>オープニング</u> - 高村ゆかり、ピーター・ウッドワード
9:05	<u>「循環ライフスタイルを求められるべき姿にするには」</u> マーカス・テルホ、フィンランド・イノベーション基金 (Sitra) Resource-wise Citizen [リソースワイズシチズン] ・プロジェクトディレクター
9:15	<u>「新しいライフスタイル」</u> 小泉文明、株式会社メルカリ 取締役社長兼務COO
9:30	<u>「Towards More Circular Economy : ユニリーバの持続可能な生活プランと新しいプラスチック経済」</u> 北島敬之、ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 代表取締役
9:45	<u>「循環型ライフスタイルを世界的に可能にするもの」</u> エバリスト・サンチェス・フランシスコ・ジュニア、コカ・コーラ 技術本部副社長ゼネラルマネージャー
10:00	<u>「持続可能なライフスタイルへのロードマップ：1.5度のライフスタイル」</u> アヌ・マンディ、フィンランド・イノベーション基金 (Sitra) シニアリード ルイス・アケンジ、地球環境戦略研究機関 (IGES) 持続可能な消費と生産領域プログラムディレクター
10:30	<u>セッション終了</u>

SDGs:



PS5: 循環経済に向けた教育

モデレーター：ピーター・ウッドワード、プロファシリテーター



未来の教育者には循環経済的思考を備えていることが求められている。本セッションでは、先進的な教育制度を確立しているフィンランドと日本が、循環経済に向けた教育について話し合う。

11:00	<u>イントロダクション</u> – 日本の生徒のビデオ
11:05	<u>「SDGsと教育」</u> 河野通治、日本国環境省 大臣官房 環境教育推進室長
11:20	<u>「循環経済に基づいた未来の産業や働き方に求められるスキル」</u> キルシー・ソルムネン、フィンランド・イノベーション基金 (Sitra) 理事 クリス・グランサム、IDEO 循環経済部門 エグゼクティブディレクター
11:45	<u>循環経済のための教育ソリューション：</u> <u>「Me & My Cityの事例」</u> – カイサ・コイステネン、TAT経済情報室長 <u>「もったいないの事例」</u> – 武藤めぐみ、国際協力機構 (JICA) 地球環境部長
12:15	モデレーターによる総括
12:30	<u>セッション終了</u>

SDGs:



PS6: グローバルバリューチェーンと循環貿易

モデレーター：ソフィー・ブートレジエ、経済協力開発機構（OECD）資源生産性・廃棄物作業部会（WPRPW）議長



プラスチックや金属などのリサイクル材にはどのような市場があり、循環経済は国際貿易にどのような影響を与えるのだろうか？本セッションでは、国際貿易がどのように循環経済の移行を支援できるかを紹介する。

11:00	<u>イントロダクション:</u> ソフィー・ブートレジエ、経済協力開発機構（OECD）資源生産性・廃棄物作業部会（WPRPW）議長
11:05	<u>キーノート:</u> シャドウール・アグラワラ、経済協力開発機構（OECD）環境局 環境経済統合課長
11:20	<u>パネルディスカッション:</u> ジェーン・コリネック、経済協力開発機構（OECD）貿易農業局 エコノミスト兼貿易政策アナリスト 小島道一、東アジア・ASEAN経済研究センター（ERIA）シニアエコノミスト スコット・ヴォーン、国際持続可能開発研究所 CEO 佐藤多加子、リコーサステナビリティ推進本部 環境経営推進室長 ロナルド・ヴォグルウィード、ワールプールグローバル持続可能性ディレクター
12:25	<u>総括とまとめ</u> マレナ・セル、フィンランド外務省
12:30	<u>セッション終了</u>

SDGs:



Co-Organiser:



PS7: プラスチックの循環経済

モデレーター：ダニエル・カレハ、欧州委員会 環境総局 総局長

プラスチックは経済や日々の生活において重要かつ身近な材料で、社会のさまざまな問題の解決に役立っている。しかし、現在採用されているプラスチックの生産・使用・廃棄方法は環境に有害だけでなく、より資源効率の循環アプローチによって経済的利益を享受する機会を奪っている。複雑なバリューチェーンを見直し改善するには、すべての人々による一層の努力と協力が不可欠だ。

本セッションでは、既存の拡張可能な革新的ソリューションによって循環経済がプラスチックのバリューチェーンにどのような機会をもたらすかを検証する。



11:00	挨拶とイントロダクション - <u>ダニエル・カレハ</u> 、欧州委員会 環境総局 総局長
11:10	<u>「新興国におけるプラスチックの循環経済の機会」</u> <u>デイヴィッド・カツ</u> 、プラスチックバンク 創設者兼CEO
11:25	<u>パネルディスカッション：「今ある革新的ソリューションと認識向上」</u> <u>ヴェロニカ・デ・ラ・セルダ</u> 、TriCiclos (チリ) パートナー兼CEO <u>カール・H・フォスター</u> 、PlasticsEurope 専務理事 <u>レジーナ・デュベ</u> 、ドイツ環境省 資源環境・水局長
11:45	質疑応答
11:55	<u>パネルディスカッション：「革新的ソリューションを世界に広げるために」</u> <u>レナ・プリップ-コヴァチ</u> 、インター・イケア・グループ サステナビリティマネージャー <u>ディブ・マンツ</u> 、花王株式会社 ESG部門副統括 <u>エイミー・ゴンザレス</u> 、東アジア海域環境管理パートナーシップ 事務局長
12:15	質疑応答
12:25	モデレーターによるまとめ
12:30	セッション終了

SDGs:



PS8: 循環経済の企業事例

モデレーター：カリ・ヘレヴィ、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）プロジェクトディレクター

企業は循環ビジネスモデルの構築においてどのような機会と課題に直面しているのか？本セッションでは、循環ビジネスイノベーションの成功事例や、循環ソリューションの構築における中小企業と大企業の協力モデルを紹介する。



11:00	<u>歓迎の挨拶とイントロダクション：</u> カリ・ヘレヴィ、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）プロジェクトディレクター
11:02	<u>オープニング対談「循環経済の企業事例：我々はいまどこにいるのか？」</u> ジュリアン・ゲリエ、中小企業執行機関（EASME）ディレクター カリ・ヘレヴィ、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）プロジェクトディレクター
11:10	<u>「循環経済を戦略から事業へ：LOOPと循環経済ブレイクブックの紹介」</u> ジリ・アルポネン、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）
11:20	<u>ビジネスピッチ：中小企業および法人（12テーブル）「我が社のビジネスソリューションとビジョン」</u> フィリップス、ING、スキポール・エリア・ディベロップメント・カンパニー（SADC）、マス・グローバル、カネカ、ウィバック、ゴレニア、ルーザー、Sundahus、EDAGエンジニアリング、ソフトライン、アロマシステム
11:40	<u>テーブルディスカッション（12テーブル）：</u> 聴衆および企業・法人／ピッチを行った中小企業
12:30	<u>セッション終了</u>

SDGs:



Co-Organiser: EASME

PS9: 循環経済に関する最先端の知見

モデレーター：パス・デ・レーウ、世界資源フォーラム マネージングディレクター

現在、循環経済をめぐる興味深いテーマについて、どのような科学研究が行われているのか？また科学の発見は循環経済ソリューションの商品化にどう役立つだろうか？

本セッションでは、循環経済に関する最新の知見を紹介しながら、企業が科学の進歩をどのように活用できるかを考える。

14:00	イントロダクションーパス・デ・レーウ、世界資源フォーラム マネージングディレクター
14:05	「循環経済を実現するエネルギーの科学的進歩」 志満津孝、株式会社豊田中央研究所 取締役
14:15	「循環経済を実現する材料の科学的進歩」 ヘレン・メッツ、DSM 樹脂・機能材料部長
14:25	「循環経済を実現する経営モデルの科学的進歩」 ナビル・Z・ナスル、国連環境計画(UNEP)国際資源パネル
14:35	質疑応答ー志満津孝、ヘレン・メッツ、ナビル・Z・ナスル
14:55	対談：「循環経済を支える未来の情報技術」 ヨルゴス・デメトリウ、ポンツ・ビジネススクール教授 カール・フランケン、VITO持続可能な物質管理・研究マネージャー
15:20	総括ーパス・デ・レーウ
15:30	セッション終了



SDGs:



PS10: 自動車革命と循環経済実現に向けた未来の輸送

モデレーター：西村英俊、東アジア・ASEAN経済研究センター（ERIA）事務総長



モビリティ革命はどのような原動力によって引き起こされ、輸送部門にはどのような循環経済ソリューションがあるだろうか？本セッションは、クリーン輸送のための新たなソリューションや、モビリティの未来像に関するさまざまな視点を紹介する。

14:00	<u>イントロダクション</u>
14:10	<u>キーノート</u> – <u>安部静生</u> 、トヨタ自動車株式会社 パワートレーンカンパニー常務理事
14:20	<u>キーノート</u> – <u>田中清生</u> 、ソフトバンク株式会社 グループマネージャー
14:30	<u>パネルディスカッション</u> ：「循環経済における自動車生産および循環型モビリティサービス」 <u>鈴木英夫</u> 、新日鐵住金株式会社 常務執行役員 <u>クリスタ・フタラ・ジェンクス</u> 、MaaSグローバル生態系・持続可能性部長 <u>安部静生</u> 、トヨタ自動車株式会社 パワートレーンカンパニー常務理事 <u>田中清生</u> 、ソフトバンク株式会社 グループマネージャー
15:15	<u>総括</u>
15:30	<u>セッション終了</u>

SDGs:



PS11: 持続可能な消費：循環経済へのドライバーと気候変動への便益

モデレーター：ティム・カステン、国連環境計画（UNEP）

本セッションでは、市場の需要と消費者の決断が経済の循環性促進や温室効果ガス排出量削減において果たしている基本的役割について説明する。また循環型消費を促すために現在行われている対策や優良事例を紹介しながら、それらをスケールアップまたは再現するメカニズムの構築をサポートする。



14:00	<u>オープニング</u> ティム・カステン、国連環境計画（UNEP）経済部門副部長
14:05	<u>パネルディスカッション</u> ロアルド・ラペール、オランダインフラ・水管理省 環境・国際問題局長 森口祐一、東京大学 教授 浜中裕徳、イクレイ日本 理事長 マリ・パンツァー、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）ディレクター アンダース・ウィクマン、Climate-KIC責任者
14:45	<u>ラウンドテーブルディスカッション</u>
15:25	<u>ラウンドテーブルからの主なメッセージおよびまとめ</u> ティム・カステン、国連環境計画（UNEP）経済部門副部長
15:30	<u>セッション終了</u>

SDGs:



Co-Organiser:



PS12: 循環経済と地方の活性化

モデレーター：C.R.C.モハンティ、国連地域開発センター（UNCRD）

循環経済によって水消費が均衡すれば地方創生が促される。また単に天然資源を抽出するだけでなく、精製も行って生産価値が向上すれば、地方の雇用機会を増大させることができる。本セッションでは、これらの機会を地域別に検証する。



14:00	<u>モデレーターによる歓迎の挨拶とインストラクション</u> C.R.C.モハンティ、国連地域開発センター（UNCRD）
14:05	<u>キーノート1</u> ラック・ナカジャ、持続可能な開発のためのガバナンスおよび政策（GPS-Dev）創設者兼社長
14:20	<u>キーノート2</u> アショク・コスラ、ディベロップメント・オルターナティブ&タラライフ創設者兼会長
14:35	<u>パネルディスカッション1:</u> <u>「地方の活性化に向けて循環経済がもたらす機会の活用：革新的なアプローチのケーススタディ」</u> 佐藤博之、株式会社アミタ持続可能経済研究所 代表取締役 ベンカタチャラム・アンブモジ、東アジア・ASEAN経済研究センター（ERIA）シニアエコノミスト ハンネレ・ポッカ、フィンランド環境省 局長 アクマル・シディック、アジア開発銀行 課長
14:55	<u>パネルディスカッション2:</u> <u>「地方での循環経済推進を目的とした国際機関、各国政府、地方当局、専門家および市民による協力・パートナーシップの役割」</u> 佐藤博之、株式会社アミタ持続可能経済研究所 代表取締役 ベンカタチャラム・アンブモジ、東アジア・ASEAN経済研究センター（ERIA）シニアエコノミスト ハンネレ・ポッカ、フィンランド環境省 局長 アクマル・シディック、アジア開発銀行 課長
15:15	質疑応答
15:25	モデレーターによる総括
15:30	セッション終了



PL4: 循環経済に向けた国際協力

モデレーター：高村ゆかり、東京大学 教授、ピーター・ウッドワード、プロファシリテーター



SDGs:



16:00	挨拶および共同主催者への謝辞
16:05	2050年に向けたビジョン
16:15	「循環経済のための国際協力と未来のビジョン」 ジャネス・ボトクニック、国連環境計画（UNEP）国際資源パネル 共同議長 ダニエル・カレハ、欧州委員会 環境総局 総局長 国吉浩、国連工業開発機関（UNIDO）事務次長 アデリン・リー、ASEAN
17:00	「G20に向けた日本のサマリー」 あきもと司、日本国 環境副大臣
17:12	謝辞とこれからの道筋 マリ・パンツァー、フィンランド・イノベーション基金（Sitra）ディレクター
17:24	来年はヘルシンキで会いましょう！：ビデオ映像
17:30	セッション終了